

# 竪型ストーカ式焼却炉の特長

熱回収（焼却）施設には最新の炉形式「竪型ストーカ式」が採用されています。

## ごみ質の変化・変動に対応

処理対象物やごみ質の変化による燃焼状態の変動を抑制できるため、安定燃焼が可能です。生活スタイルの変化などにより、出されるごみが大きく変わった場合でも安心です。

## 安心の環境性能

ごみの燃焼により発生したガスを炉内で完全燃焼できるため、有害ガスの発生を抑制し、ダイオキシン対策も万全です。

## 高い熱効率

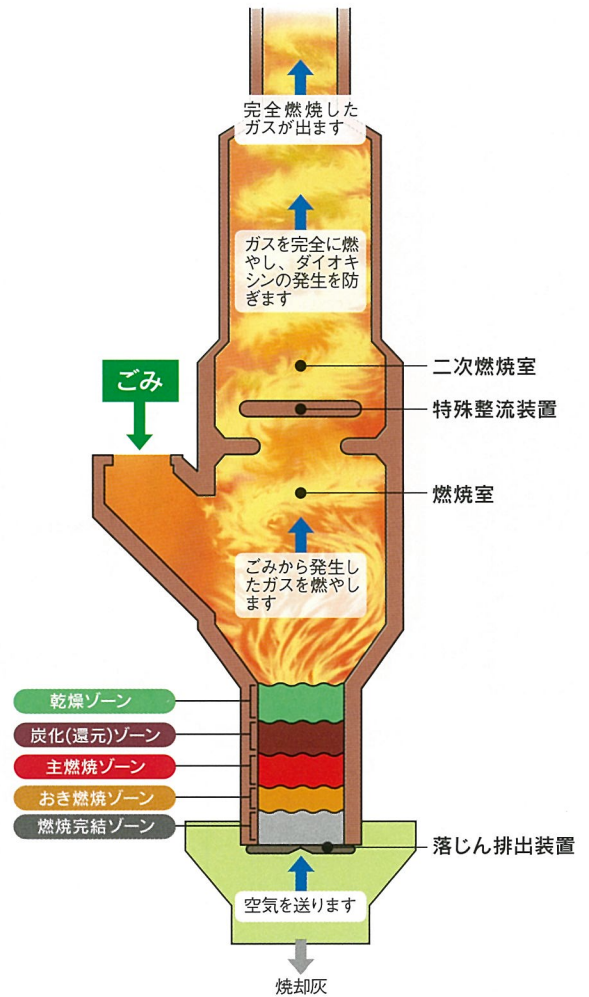
炉内にごみを厚く堆積し、下から燃焼空気を送ることにより、ごみと空気が良く接触して効率良く燃やせます。また、熱を逃がしにくい構造のため、熱の有効利用にも適しています。

# 竪型ストーカ式の燃焼のしくみ

<b>乾燥ゾーン</b>	熱でごみを乾燥します
<b>炭化(還元)ゾーン</b>	乾燥したごみを酸素が少ない状態で炭化します
<b>主燃焼ゾーン</b>	炭化させたごみを燃やします
<b>おき燃焼ゾーン</b>	未燃物をさらに燃やします
<b>燃焼完結ゾーン</b>	未燃物を燃やしきります

## 竪型ストーカ式の実績

竪型ストーカ式の焼却炉は、一般廃棄物処理施設を始め、産業廃棄物処理向けなど、これまでに国内外16箇所に建設されています。また、主要なストーカ形式が記された「ごみ処理施設整備の計画・設計要領」（(公社)全国都市清掃会議発行）の2006年版にも掲載されています。



# 従来のストーカ式と竪型ストーカ式の比較

